

「話のたねのテーブル」より

イヌコハコベのトゲのようなものは何？

岩瀬 徹

イヌコハコベは比較的新しい帰化植物です。すでにネット上には多くの情報が寄せられ、最近の植物図鑑にも出ています。街なかの道ばたや街路樹の植えマスなどによく見かけます。全体はコハコベに似ていますが、小柄でなよなよした感じです。

3～4月ごろ伸びて花をつけますが、花弁はなく、5個のがく片の基部に赤紫色の斑紋があることでコハコベとは区別できます。また対生する葉の裏の基部にも同じような斑紋があります。このような特徴は図鑑やネット上でよく説明されています。

先日、ある観察会の折り、「イヌコハコベのこれは何でしょう？」と尋ねられました。それは葉脇から出ている細いトゲのようなものです。トゲといっても鋭いものではなく、茎同様の軟らかさのものです。それまであまり気に留めていなかったのですが、ちょっと戸惑いました。

改めてあちらこちらのイヌコハコベを見てみると、みなこのトゲがあります。茎の中ほどのものは長くなっていますが、茎の上部の葉脇にも若いトゲがいくつも付いています。

さて、このトゲは何ものか、私なりの仮説をいくつか考えてみました。

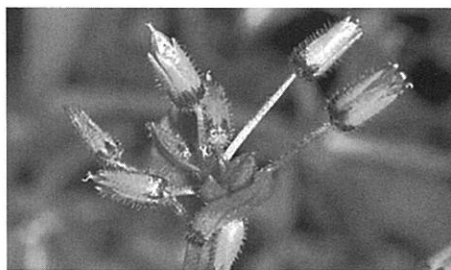
1. これは花茎であって先端につぼみが付いていたが、早く落ちてしまった。
2. もともと茎の主軸であったが成長が止まり、脇芽が伸びて主軸のようになった。
3. 花茎として伸びたが、先端に花芽が形成されずに終わった。

これらのどれに当てはまるか、あるいは

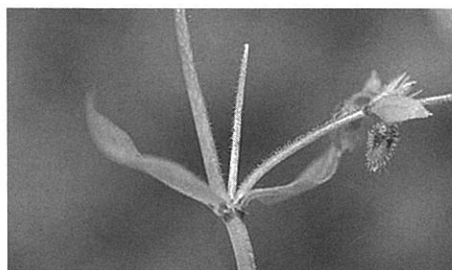
別の説明がなされるか、まだよくわかりません。

1. のようなことは、ハコベやコハコベには見られますが、イヌコハコベの多くのトゲには当てはまらないように思います。
2. も無理で、3. が適当かなと考えますが、的確なお考えや情報をお持ちの方に教えていただきたいと思っています。

(話のたねのテーブル No.183 より)



▲イヌコハコベの花



▲葉脇から出ているトゲ



▲茎の上部、小さいトゲが何本も出ている